

資産構成の最適化

HCアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者
加入協会

関東財務局長（金商）第430号
一般社団法人資産運用業協会

<https://www.fromhc.com>

2026.4.7

人+産業金融=成長
成長を支える投資の原点へ



概要

事業価値と企業価値

企業は、一つ以上の事業を営む主体のこと。企業価値は、企業が営む事業価値の合計で、単純合計ではなく、複数事業を営むことによる事業結合の効果を調整したもの。事業結合の効果は、必ずしも、正の価値とは限らず、しばしば、大きな負の価値となる。

事業投資と企業投資

企業に投資するということは、原点において、企業の営む事業に投資することとなる。企業が一つの事業を営むだけならば、企業投資と事業投資は一致するが、複数事業を営む企業への投資は、事業結合への投資として、企業投資としての固有の意味をもつ。

アセットライト

アセットライトは、asset light で、資産を軽くすること、即ち資産保有を必要最小限にすること。不要不急の資産はおろか、事業に欠くことのできない資産すら極力保有しないようにする経営戦略をいう。金融の構造を変えることは、量的には、拡大より縮小に帰結する可能性が大きいものの、同時に、質的な高度化により収益性を高める可能性も大きくなる。この質的成長こそ、日本の金融機関に課せられた課題である。

ベストオーナー

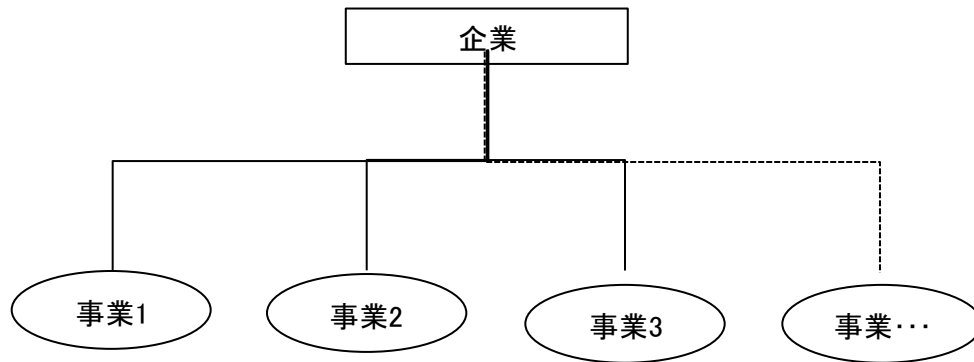
ベストオーナー論の要諦は、事業の成長余力は所有者が規定するというもの。複数事業を保有する場合の企業経営において、どの事業が中核であるかを分析することは肝要であり、他社に委譲したほうがより合理的であると考えられる事業については、より良いオーナーに移転すると、経済全体としての厚生を改善することが可能であると考えられる。経営者には、常に、自分の所有者としての適格性、すなわち、自らがその事業のベストオーナーであるかどうか省みることが求められる。

コングロマリットディスカウント

コングロマリットとは、多数の事業を営む企業のうち、各事業の独立性が高く、事業間の相互の関連が希薄になっているものをいい、ディスカウントというのは、割安ということで、企業の株式の時価総額が各事業の理論価値の合計を下回っている状況をいう。コーポレートガバナンスの要諦は、複数の事業間の真の有機的連結に基づく新たな付加価値を創出できること、即ち、事業価値の単純合計値よりも大きな企業価値を創出できることに帰着する。

用語集もご参照ください <https://www.fromhc.com/glossary/>

企業価値と事業価値



ガバナンスの二段階
 事業結合の合理性
 機能純化させたのが持株会社

資金調達の二段階
 企業金融
 コーポレートファイナンス

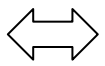
事業経営の合理性

事業金融
 オブジェクトファイナンス

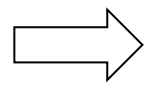
$$\text{企業価値} = \text{事業価値1} + \text{事業価値2} + \text{事業価値3} + \dots + \text{事業結合の付加価値}$$

$$\text{事業結合の付加価値} = \text{事業結合の合理性}$$

- 正の価値
- 産業連関
 - シナジー
 - リスク分散
 - 統合による効率化
 - 資金調達と配賦の効率性



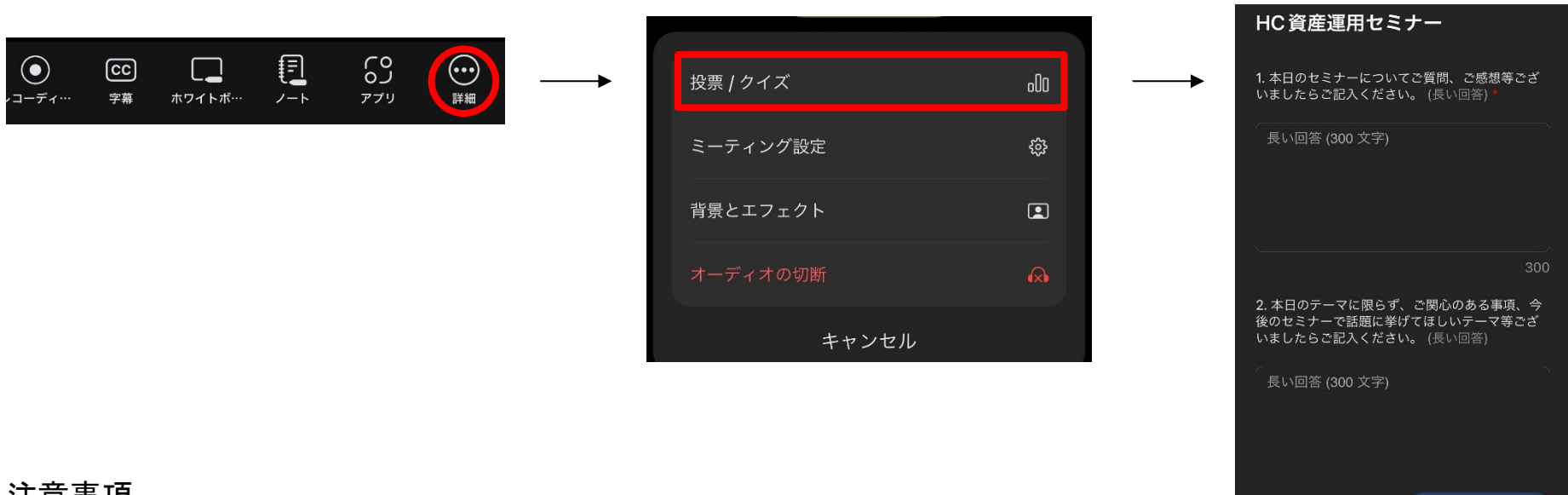
- 負の価値
- 合理性なき多角化
 - 統合による非効率化
 - 不採算事業の不整理
 - 経営資源の拡散
 - 非効率な調達資金配賦



* アセットライト経営の浸透
 不動産等リースできるものの売却
 * ベストオーナー論の浸透
 次の成長ステージに最適な株主
 本業回帰

講演後アンケート/注意事項

今後の運営に活かしたく、ご質問やご意見、ご感想、ご興味あるテーマなどを承っておりますので、ご自由にご意見をお寄せください。
回答方法: 各セミナー講演途上でZoom上で配信します。配信後は一度閉じた場合でも、以下の通り詳細から再表示できます。



注意事項

- 本セミナーは、資本市場における種々の投資対象や投資に関する概念等について解説・検討を行うものであり、当社が行う金融商品取引業の内容に関する情報提供及び関連する特定の金融商品等の勧誘を行うものではありません。
- 本資料中のいかなる内容も将来の投資成果及び将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。
- 本資料の著作権その他知的財産権は当社に帰属し、当社の事前の許可なく、本資料を第三者に交付することや記載された内容を転用することは固く禁じます。